

雄志・八千浦中学校区 同和教育だより

＜雄志中・八千浦中・諏訪小・戸野目小・上雲寺小・高士小・八千浦小 共同発行＞

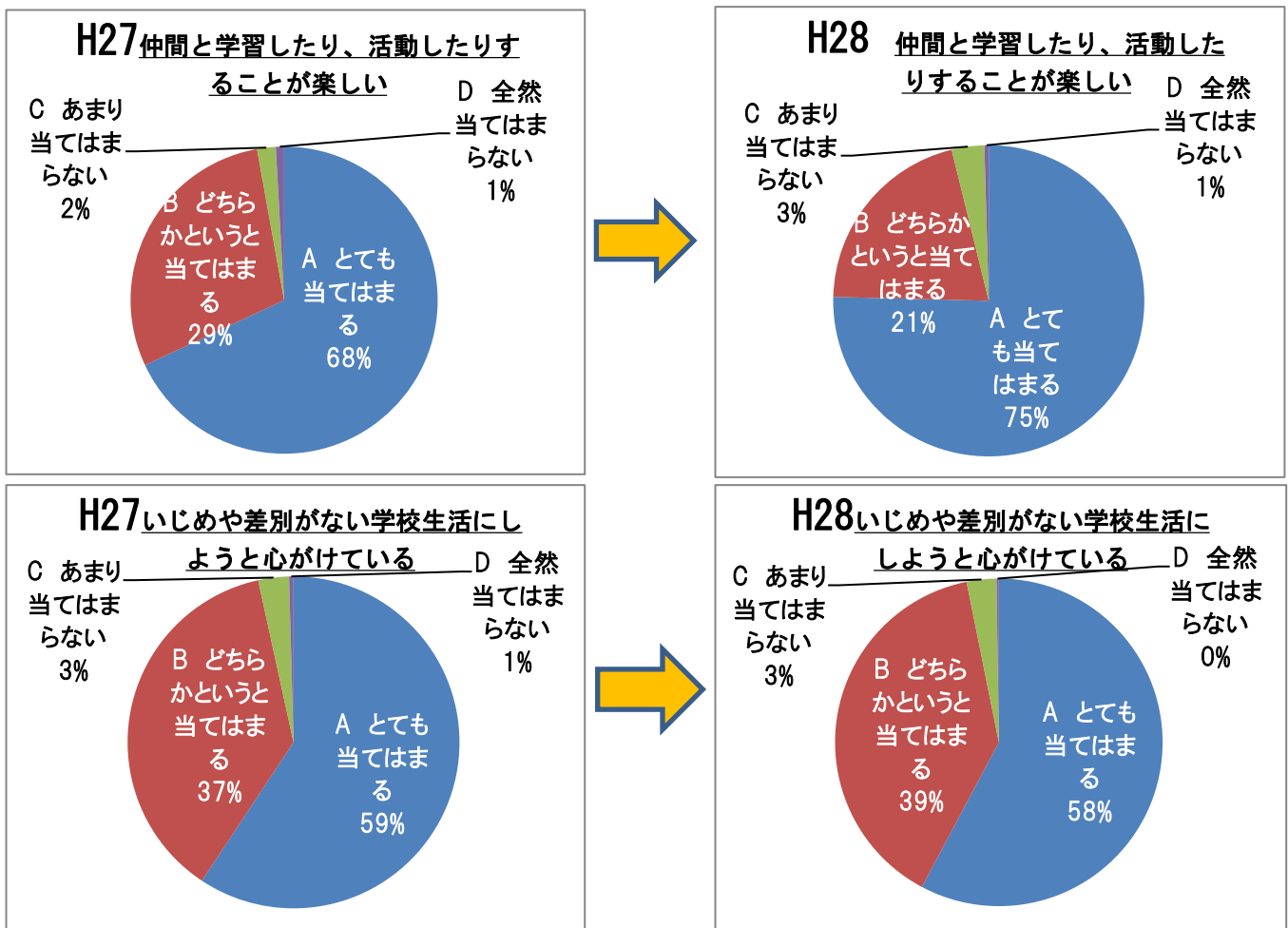
【平成 29 年 1 月 No. 8】

アンケート結果の紹介と考察

2 学期には、児童生徒、保護者、地域の皆様の多数からアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。その結果を、昨年度の数值等と比較しながら考察しましたので、紹介いたします。

1 児童生徒（小学 5 年生～中学 3 年生） アンケート

※ 2 回のべ 903 名から回答をいただきました。

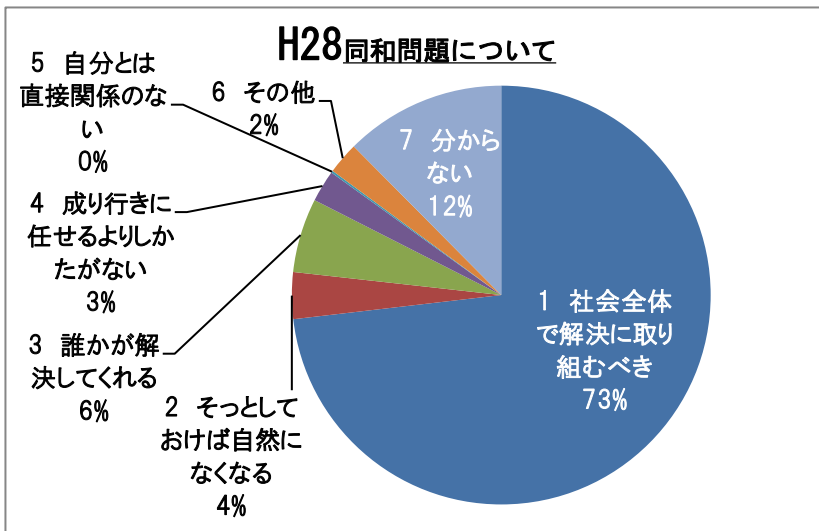
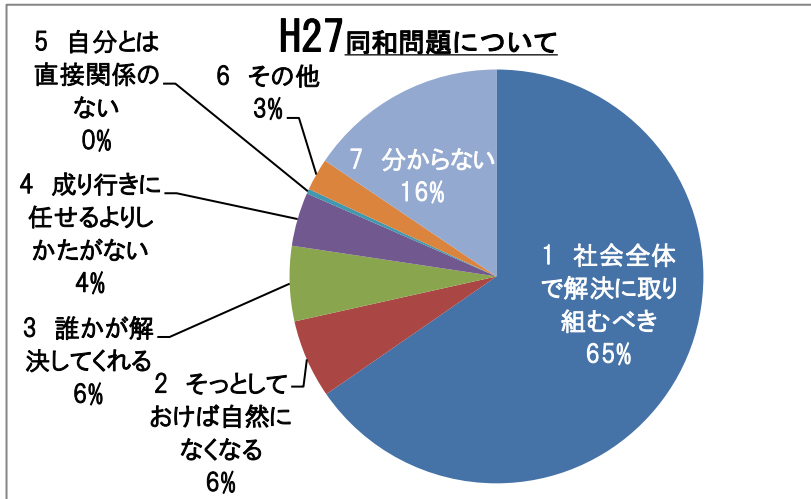


取組の結果、「仲間と学習したり、活動したりすることが楽しい」について明確に肯定する（「とても当てはまる」と回答する）児童生徒が 7% 増加したのは成果であるにとらえます。しかし 2 年とも、「楽しい」と答えることができない学校生活を送っている児童生徒がいます。このような児童生徒がいることを胸に刻み、より親身にかかわり、子どもたちに楽しさや成長を保障していくことこそが私たちの責務であり、重要な課題であると考えています。

「いじめや差別がない学校生活にしようとしている」の項目については大きな変化がありませんが、これまでのたよりでも紹介しておりますように、各校や各中学校区での「いじめ見逃しゼロスクール集会」等における児童生徒の自発的・自治的取組等から、「思いを行動に移す」という点では望ましい変容が見られていると考えます。

2 保護者、地域住民アンケート

※2回のべ1,658名から回答をいただきました。



家庭や地域の皆様とともに学び、ともに考えてきた結果、「社会全体で解決に取り組むべき」との回答が8%増えたのは成果であるととらえます。以下、自由記述に書いていただいたお言葉から紹介します。

○「1」の考えになったのは、ある研修会で「その歴史は苦しみ」と正しく知ったからである。史実に基づいた正しい教育をする必要があると思う。

○いわれなき差別がまだあることを、全市民が認識しなくてはいけない。子供たちには、正しい人権感覚を身に付けてほしい。

○同和問題について昨今、若い世代では知らない話という事も多いと思います。同和教育の講習会にて初めて耳にし、逆に差別を生じてしまうのでは？との意見もあると思いますが、生きていく中で、いつこの問題と向き合わなければいけない時が来るかもしれず、やはり教育は必要だと思えます。間違った認識をもつことで生まれる差別感、蔑視は、同和教育に限らず、いじめなどにも通ずる考え方にもつながりかねません。

今なお続く同和問題。アンケートにも多くの方から書いていただいたように、「いわれなき差別」に遭い、特に結婚や就職といった人生の大きな節目で、苦しみ、悲しみ、憤りを感じている方が多くおられます。

子どもたちが生きていくこれからの社会を「差別を見逃さない賢さ」、「差別を許さない強さ」、そして「違いを認める寛容さ」をもったものにしていくことは、私たち大人の責務です。子どもたちの学びや自治的活動を支援しながら、私たちも学び、考え、行動し続けていきたいものです。



八千浦中学校生徒会による「陰口ストップ運動」



雄志中学校区「いじめ見逃しゼロスクール集会」での小学校取組発表

ともに学ぶ ともに生きる

児童生徒、保護者、地域の皆様とともに、同和問題を中心に人権問題を学び、考えてきました。中学校区単位や、7校共同で行われた講演会や学習会を振り返ります。

「共に生きることの幸せ」

古河邦子さん

(さいたま市五反田会館)

H27. 11. 19 (八千浦小学校にて)



古河さんがタクシーに乗せてもらえなかった話、タクシーの運転手や周りの人から言われたひどい言葉によってたくさん辛く、苦しい思いをしたそうです。私は、講演会を通して、学ぶことが大切だと思いました。正しいことを学んでいないから差別をするということが分かりました。(八千浦小学校児童)

「ぬくもりを感じて Part1 & Part2」

中倉茂樹さん

(徳島県同和地区青少年団体連絡協議会「止揚の会」)

H27. 11. 21 (雄志中学校にて)

H28. 11. 14 (雄志中学校にて)

H28. 11. 15 (八千浦中学校にて)



被差別部落のことは知っていたけれど、やっぱり自分には関係のないことと考えていたので、詳しく知ることができて良かったです。また、そう思っていたことも恥ずかしく感じました。皆と違うということだけでいじめや差別が起こっていたことにはとても驚きました。「子どものころに心から汗を流した人は強い人になる」という言葉が印象に残りました。そういう人になりたいと思いました。(雄志中生徒、昨年度講演会の感想)

「差別の現実学ぶ」

(7校学校運営協議会合同現地学習会)

渡辺秀明さん

(部落解放同盟新潟県連合会上越支部長)

H28. 6. 7 (白山会館にて)



真実を知らないことは、恐ろしい誤解を生むことがあるということを実際に知ることができた。差別なんてもうないと思っていたが、無知であったと反省し、他の人にも今日の話を広めていきたい。(学校運営協議会委員)

「強くて寛容な社会を」

網谷勇氣さん

(NPO法人「バブリング」、「ブリッジ・フォー・スマイル」)



性的マイノリティの方が、調査で8%おられると聞いて、驚いた。私も知らずに、相手を傷つけたことがかなりあったか、と反省した。(地域住民)

「子供の選択肢を広げよう」

松縄誠司さん

(プロジェクト「offsprings」)

H28. 11. 21 (雄志中学校にて)



ただ子供のそばにいるということがどれだけ大切か、教わりました。子供が、悩みを言ってくれるような大人でいたいと思いました。(小学生保護者)

これらの講演会や学習会には、児童生徒も含めて、のべ約850名の参加がありました。それ以外にも、各校単位で講演会等が行われ、多くの方々と、ともに学ぶことができました。

この大切な学びを今後に生かしていくこと、さらに学び続けていくことが、私たちに求められています。

《各校の実践紹介⑦(最終回) 雄志中学校》

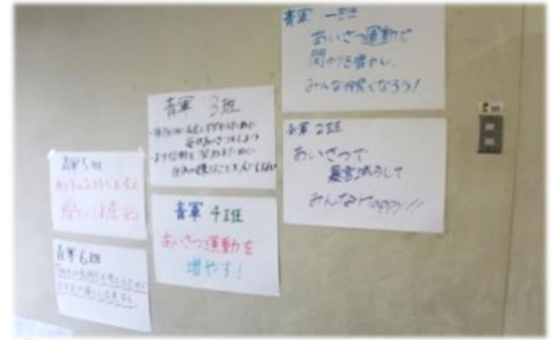
いじめ見逃しゼロ宣言文づくり

11月、12月と「いじめ見逃しゼロスクール運動」の一環として、「いじめ見逃しゼロの宣言文づくり」を全校生徒で進めてきました。今年度は初めて、1～3年生の縦割り班で話し合い活動を行い、宣言文の原案作りに取り組みました。



【「いじめ見逃しゼロ宣言文づくり」の流れ】

- (1) 健康委員会と生徒会本部によるアンケートの実施と結果の分析
- (2) 話し合い活動のテーマの設定
→【テーマ：自分の意見を言える環境をつくろう】
- (3) 学級討議による各クラスの行動目標の設定と振り返り
- (4) 体育祭の軍団をもとにした縦割り班での話し合い活動
→雄志中学校いじめ見逃しゼロ宣言文原案づくり
- (5) 縦割り班で話し合った宣言文の原案をもとに、
代議委員会で宣言文の集約
- (6) 生徒会本部で「いじめ見逃しゼロ宣言文」を完成



《いじめ見逃しゼロ宣言文》

「私たちは、全員が相手に伝わる「明るい笑顔」であいさつをします！」

「私たちは、お互いに相手の良いところを見つけ、ほめ合います！」

「私たちは、会話で伝え合い、お互いに知り合い、感謝の気持ちをもって行動し合うことで信頼を深めます！」

完成した宣言を全校で意識することで、「いじめを見逃さない雰囲気」を高めていきます。

同和教育講演会 『めくもいを感じて』PART2



11月14日(月)に、昨年に引き続き中倉茂樹さんを講師に迎え、同和教育講演会を行いました。校区内の小学生、教員、保護者、地域の方々からも参加していただいた今回の講演では、被差別部落出身の仲間の結婚差別の話や、中倉さんの奥さんが職場で遭遇した被差別部落に住む子を差別する先輩の話などが語られました。つらい現実がありながらも、それを乗り越えようと仲間と一致団結した経緯や、先輩の意識を変えようと手紙4枚に思いを連ねた奥さんと先輩のその後のやりとりなど、実体験に基づいた

話はどれも心に迫るものがありました。児童生徒も大人も、真剣に中倉さんの話を聞き、話引き込まれていました。

【生徒の感想】

- ・「差別がいけないということは当たり前だけど、それを変えられない人間もみじめだ。」という言葉が一番印象に残りました。差別はいけないことだと多分みんなが言うと思います。でも、差別をなくすために尽くしている人は多くはないと思います。私は差別についてもっと考え、無くすために大切なことをもっと自分なりに考えて、実行にまで移せるようにしたいです。
- ・差別しないのはもちろん、人が困っていたら助けたいと思った。本当に頼りになる信頼できるような仲間をたくさんつくりたいと思った。自分や周りがどうすれば1番幸せになれるかをよく考えて生きていきたいと思った。

【保護者の感想】

・今回の講演は子どもに勧められて参加しました。大変貴重なお話を聴く機会ができて感謝しております。人生の中で辛いことはたくさんあると思いますが、そんなときに相談できる仲間の素晴らしさを感じました。